

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
AM14Z002		医療倫理学 (MedicalEthics)					導入教育科目 社会・経済		対面						
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態						
必修		1	1	医学部医学科 先進医療科学 科	後期	水1	日本語		単独						
担当教員	氏名 今井 浩光(医)														
	E-mail imaih@oita-u.ac.jp 内線 5600														
授業の概要	医療現場における複雑な倫理的課題を理解し、自ら考察する能力を養成することを目標とする。特に人生の最終段階の医療と先進的な医療の持つ倫理的な課題を取り扱う。														
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1 医療の多様性について説明できる。									○			○			
目標2 臨床倫理の考え方を説明できる。									○			○		○	
目標3 先進的な医療の持つ倫理的課題を指摘できる。									○			○		○	
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									3			6		1	
授業の内容															
1 臨床倫理導入 1															
2 臨床倫理導入 2															
3 動画コンテンツ視聴															
4 人生の最終段階の医療における倫理 1 (尊厳死、安楽死)															
5 人生の最終段階の医療における倫理 2 (老いと医療)															
6 人生の最終段階の医療における倫理 3 (認知症医療の倫理)															
7 人生の最終段階の医療における倫理 4 (緩和ケア)															
8 人生の最終段階の医療における倫理 5 (DNAR指示)															
9 人生の最終段階の医療における倫理 6 (エンドオブライフに求められる倫理)															
10 脳死・臓器移植															
11 出生前診断と人工妊娠中絶															
12 遺伝子診断・遺伝子治療															
13 エンハンスメント、生殖補助医療															
14 さまざまな医療倫理の総括															
15															
ラーニングゴール	A:知識の定着・確認		○ 倫理的課題についての調査、レポート作成を行う。また、少人数グループで倫理的課題についてのディスカッションを行い、倫理的判断の多様性と倫理的検討を実践的に学ぶ。				工夫その他の	動画コンテンツを利用する。							
	B:意見の表現・交換		○												
	C:応用志向		○												
	D:知識の活用・創造		○												
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		様々な倫理的問題について、資料を検索し、知識を整理する(15h)												
	事後学修		グループでのディスカッション後の考え方の変化を振り返る(2h)												
	想定時間合計		17												
教科書	「医学生のための生命倫理」 盛永審一郎・松島哲久編 丸善出版 平成24年 ISBN 978-4-621-08593-6														
参考書	指定しない														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	テスト	90%	○	○	○							
	レポート	10%			○							
注意事項												
備考												
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の有無	○											
教員の 実務経験	附属病院の医師											
実務経験を いかした教 育内容	医療現場で問題となる事例を講義に取り入れる。											